「川の日」記念行事

第 18 回
いい川・いい川づくりワークショップ in 高知

～ 川ガキたちの国 土佐で考える 川と人のつながり・人と人のつながり～

みんなで考える“いい川”・“いい川づくり”公開選考会

（since1998，通算 28 回）

プログラム



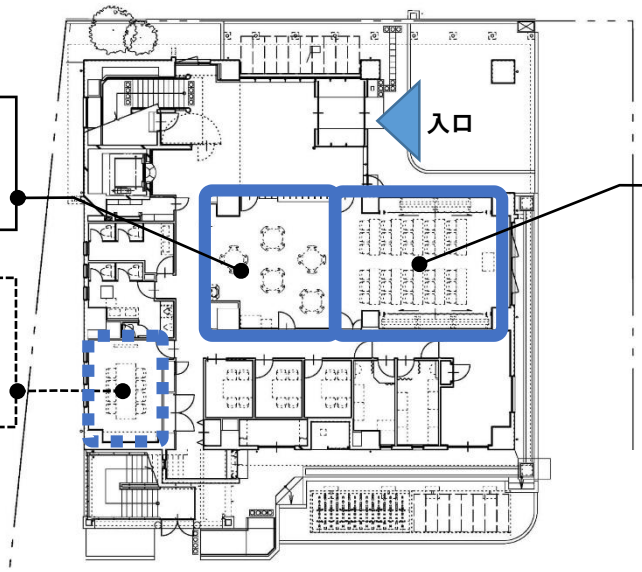
2026 年 11 月 7 日（土）・8 日（日）

会場：高知商工会館

いい川・いい川づくり実行委員会

《会場案内図》高知商工会館　　高知県高知市本町1丁目 6-24　TEL 088-875-1171

1 階

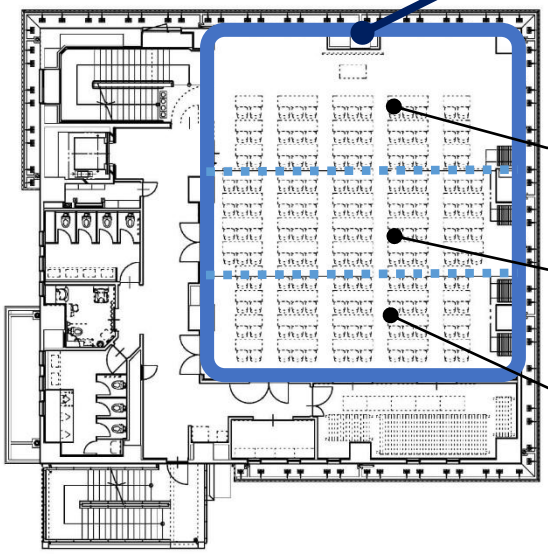


【会議室 2】
11/7 受付･ﾃｰﾌﾞﾙ E
11/8 手荷物

【WEB 会議室】
11/7 手荷物
※貴重品以外の手荷物を置くことができます

【会議室 1】
ﾃｰﾌﾞﾙ F

2 階



【大会議室】
11/7･8 全体会場
11/8 復活選考(ﾎﾟｽﾀｰｾｯｼｮﾝ)

【小会議室 A】
ﾃｰﾌﾞﾙ B

【小会議室 B】
ﾃｰﾌﾞﾙ C

【小会議室 C】
ﾃｰﾌﾞﾙ D

※小会議室 A･B･C は、大会議室(全体会場)を 3 分割で利用

※館内は複合施設となっております。他の利用者、スペース等にご配慮ください。
※貴重品以外の手荷物は、指定の場所に置くことはできますが、各自管理をお願いいたします。
※昼食（両日）は、周辺の飲食店やコンビニ、持参のものは会場内指定場所でおとりください
　ゴミは各自持ち帰りでお願いいたします。※指定の場所以外での喫煙は、屋外を含め禁止です。

【テーブル A　会場（別会場）】

COMMUBA(コミュバ)【会議室】
高知市帯屋町 2-2-14
OKAMURA 帯屋町ビル 5F

(※高知商工会館より徒歩約 7 分)
※当日、ご案内、まとまって移動します.



●第 18 回いい川・いい川づくりワークショップ in 高知　タイムテーブル

【1日目】11 月 7 日(土):【全体会場】 高知商工会館 2F 大会議室

日　時	時間	内　容	場　所
9：40～		（開場）実行委員 受付	高知商工会館 2 階 大会議室 ＊受付　1F エントランス付近
10：00 ～ 10：20	20 分	実行委員会ミーティング	
10：00～		応募者、一般参加　受付（10:20 頃 開場）	
10：30 ～ 10：45	15 分	開会，全体集会（応募者、実行委員他） ・ワークショップの進め方等	
10：50 ～ 12：05	75 分	全体発表会①　（テーブル A～C　21 件） ・1 団体 3 分で続けて発表（発表のみ）	
12：05 ～ 13：00	55 分	昼食（各自）	
13：00 ～ 14：15	75 分	全体発表会②　（テーブル D～F 21 件） ・1 団体 3 分で続けて発表（発表のみ）	
14：15 ～ 14：30	15 分	テーブル選考の各テーブルに移動・準備	（テーブル B～F） 高知商工会館 1～2 階 各会場 （テーブル A） 別会場 コミュバ
14：30 ～ 16：10	100 分	テーブル選考（グループワーク）　※途中休憩 ＊テーブル全員で互いのいいところ、“いい川”づくりのポイントを見つけ出し、共有します。 ・テーブルA～F：各テーブルから 2 団体を推薦	
16：10 ～ 16：25	15 分	全体会場へ移動 ※各会場の撤収、現状復帰は、テーブル全員でご協力ください。	高知商工会館 2 階 大会議室
16：25 ～ 16：50	25 分	全体集会 ・ﾃｰﾌﾞﾙｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによる選考結果,議論の報告（各ﾃｰﾌﾞﾙ 3 分）	
16：50 ～ 17：45	55 分	・高知発　特別セッション 「“近自然” から 日本の“いい川”づくりへ」	
17：45～17：50	5 分	・ご挨拶　韓国川の再生ネットワークのみなさん	
17：50		1 日目終了	
18：45 ～ 20：45	120 分	交流懇親会　※申込の方（会費制）	高知城ホール （4F 多目的ホール）

11 月 8 日(日):【全体会場】高知商工会館　2F 大会議室

日　時	時間	内　容	会場
9：00		開場	高知商工会館 2 階 大会議室 ＊受付　1F エントランス付近
9：10～ 10：00	50 分	開会/復活選考 ＊ポスターセッション形式の交流とともに、テーブル選考の選外から新たな視点で 5 件程度を選考予定	
10：00 ～ 11：05	65 分	全体選考（発表） ・テーブル選考からの推薦と復活選考で選ばれた団体 ﾃｰﾌﾞﾙ A より1団体 3 分で続けて発表（発表のみ）	
11：05 ～ 12：25	80 分	全体選考（二次選考）	
12：25 ～ 13：15	50 分	昼食（各自）	
13：15 ～ 14：45	90 分	公開討論会（最終選考）	
14：50 ～ 15：30	40 分	表彰式　講評及び各賞発表、表彰	
15：30		閉　会	

＊テーブル選考のグループ及び各会場は、本プログラム巻末グループ別エントリー表をご参照ください。

- 貴重品以外の手荷物は、両日とも指定場所に置くことができますが、持ち物は各自ご注意ください。
- タイムテーブルは当日の進行状況によって多少変更します。予めご了承いただくとともに、スムーズな進行を図るため、ご協力をお願いいたします。

●第 18 回いい川・いい川づくりワークショップ in 高知について

選考会の進め方について

- 通算 28 回目となる今大会には、各地より 42 団体の応募があり、１日目の全体発表会（昼食をはさみ午前、午後）で、テーブル順（A～F）に１団体に３分間で続けて発表します。
- 選考会は、全体発表会→テーブル選考（一次選考）→復活選考→全体選考（発表・二次選考）→→公開討論会（最終選考）の各過程で進めていきます。選考の各過程で議論を深め、新しい視点から光を当てること、それぞれの発表の中からタカラモノを見つけ出し、“いい川”、“いい川づくり”のキーワードや視点を積み上げていくことが、選考の目的です。
- テーブル選考は、A～F の６テーブルで、１テーブル７件がテーブル選考の対象となります。選考方法は、テーブルコーディネーターの進行のもと、発表の補足や選考員による掘り下げのための質疑、発表者どうし、テーブルの参加者全員での議論を行い、テーブルからの推薦団体を２件選びます。
- 各選考過程の選考員は、原則として実行委員の中から選出します。選考員は、自らも発表者から情報を得、学ぶ姿勢を持ちながら、一緒に「“いい川”とは何か？」を探求する立場にあります。議論や選考は、後戻りや批判をすることなく、前向きに深めていくことを心がけてください。
- 選考員の方々は、事前に発表資料によく目を通してください。資料に示してある質問を繰り返すことなく一歩進んで質疑を行い、時間を有効に使って下さい。
- 全体発表会（１日目）、全体選考発表（２日目）ともに全体会場のステージでの発表です。発表時間は、映像等の使用を含めて１団体につき３分間、発表のみを続けて行います。
- 発表者はお互いの発表や選考員からの質問によく耳をかたむけ、他のグループとも大いに議論、交流してください。

選考員の役割について

- 選考は、４つの選考の視点（P.6参照）で行います。
- 選考員はワークショップの主旨をよく理解し、各発表の応援団となって、それぞれの発表の中からキラリと光るものを探し、称えあうことを原則として下さい。フラットな議論を心がけ、批判、非難は自粛、自戒ください。
- 選考員は、公平であることを旨とします。地元であることや関わりを持つ団体の選考に際しては、発表していること以上のコメント等は控えてください。
- 全体発表会では質疑は行ないませんので、テーブル選考を担当する選考員は、担当するテーブルの各団体の発表に対して評価の視点を探り出し、あらかじめ各団体への質問内容を想定しておいてください。
- テーブル選考の各テーブルコーディネーター、またはその代理者 1 名は、選考終了後の全体集会で、各テーブルの結果やテーブルでの議論について３分で発表してもらいます。
- テーブル選考では、各テーブルから２件を全体選考に推薦します。復活選考は、翌朝９：10 より全体会場にて、ポスターセッション方式で行います。２日目の選考・討論を担当するコーディネーター、コメンテーターの投票により数件が追加推薦され、全体選考に付託されます。

大会を通じた交流、運営について

- これまでに、北海道、東北、関東、東海、長野、近畿、三重、滋賀、九州、福岡、中部、石川など、各地で地域の大会が独自に開催され、地域のネットワークや交流の機会となっています。ここ高知でも、ワークショップに先立ち今年２月に、学びと交流の集い「ちょっと聞いてみん？こうちの森と川のこと」が開催され、その場から今大会にも多くの団体が参加しています。
- 韓国でも同様の大会が行われ、交流してきました。今大会には、「韓国川の再生ネットワーク」のみなさんが参加され、今夏、南漢江（ナムハンガン）の川沿いを７泊８日で歩きながら、川の自然性の回復と保全を目指した「我が川生命徒歩巡礼」という取り組みについて、映像でご紹介いただく予定です。
- “いい川”・“いい川づくり”ワークショップ”は、2015 年の仙台大会より、備中高梁（岡山）、九州（福岡）、北海道十勝、京都・滋賀、中部（岐阜・長良川）、東北、白山手取川（石川）、そして昨年（2025 年）10 月に行われた「ひょうご神戸大会」と、各地域で開催してきました。開催地域の協力のもと、現地の実行委員会とともに運営しています。
- “いい川”・“いい川づくり”ワークショップは、公的基金の助成金等により運営しています。旅費の補助（市民、遠方の応募者、実行委員対象）等については、一部自己負担でのご協力をお願いしています。

表彰について

- ワークショップの成果を称え合う表彰式では、実行委員会からオリジナルの表彰状が贈られます。今大会グランプリの表彰状は、昨年、グランプリを受賞した新潟水辺の会（鳥屋野潟）の制作によるものです。
- 特別賞は、日本の川や水辺のために活躍され、本大会の創始者でもある広松（ひろまつ） 伝（つたえ）さんと森（もり） 清和（せいわ）さんのお名前を冠した賞を、お二人の川や水辺への思いを次代に伝えるために設けています。また、“いい川”の保全、“いい川づくり”に寄与する計画や技術を奨励していこうと、「“いい川”技術賞」を設けています。それぞれの賞は次のような視点で、公開で候補者を上げ選考します。

「広松 伝賞」

- 市民・住民の視点や立場で川や水辺の保全、回復に貢献するなど、市民のために働いた人
- 笑顔の素晴らしい人、多くの人が認める“いい男”、“いい女”、“いいグループ”

広松 伝（ひろまつ つたえ 1937～2002）

福岡県柳川市の職員として柳川の掘割が荒廃していくなか、埋め立て計画に反対し、地域住民とともにドブ浚いから始め、掘割の再生を果たした。この活動は、「柳川堀割物語」（監督:高畑 勲 1987 年公開）として映画化され、全国の川再生活動に大きな影響を与えた。「柳川水の会」会長、全国水環境交流会 理事他。著書に、「柳川堀割から水を考える」（藤原書店、1990）、「よみがえれ！“宝の海”有明海」（藤原書店、2001）

「森 清和賞」

- 川とふれあう子どもらしい元気にあふれた活動
- 多くの仲間達に共感と希望を与える活動
- 川と真剣に向いあう勇気とやさしさにあふれた活動

森 清和（もり せいわ 1942～2004）

横浜市公害研究所に在籍中に、ドブ川と化した都市河川の再生活動を始めた。市民の視点を持つとし、「よこはまかわを考える会」の設立（1982）に関わった。横浜のみならず川や水辺の再生のため、全国で啓発活動を行った。全国水環境交流会代表理事、「川の日」ワークショップ初代実行委員長。著書に、「都市と川」（農文協、1984 ペンネーム 三木和郎）、「私たちのいい川・いい川づくり最前線」（学芸出版、2004）他。

「“いい川”技術賞」

- “いい川”の保全や“いい川づくり”のために寄与した計画や技術等
- ユニークな発想、アイディアなど優れた技術の開発と応用

● 発表・選考方法（大会全体の流れ）

1日目 ・・・熱い2日間のはじまりです

実行委員会

・参加する実行委員が一堂に集い、ワークショップの目的と方法、選考についてのルール、各々の役割について確認し、共有を図ります。

全体集会

・参加者が一堂に会し、ワークショップの目的や進め方、選考の流れや選考員の役割等について共有します。

全体発表会

・全応募者 42 件の発表を A～F のテーブル順に１件につき３分（発表のみ）の制限時間で、一斉に行ないます。

テーブル選考（一次選考） テーブル A ～ F の 6 テーブル

・テーブル選考の進行は、テーブルコーディネーターの裁量で行ないます。会場からの意見の聴取等も適宜行い、テーブルの参加者全員での議論につなぎます。発言はポイントを絞り、公平に発言できるよう心がけましょう。

【基本的な進め方】
- ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ、選考員（5～6 名）の自己紹介とテーブルの評価の視点等についてのコメント（60 秒／人）
- 各発表団体の振り返りや補足
- 発表内容を引き出すための各発表者へ質疑（3 分/件）
- 議論の進行により適宜投票、コメント等
- **発表者を含めたテーブル全体での意見交換、議論により、互いの取り組みの光るところを発見、悩みや課題も共有しよう！**

・**選考２日目を担当するコーディネーター、コメンテーター**は、各テーブルを自由に回り、全体を見渡しながら、翌日の選考、討論に備えます.

各テーブルごとに**2件**を全体選考に推薦

全体集会

- 各テーブルコーディネーターが、A テーブルから順に各テーブルの議論、選考結果を報告します（3分／テーブル）。
- 各テーブルでの議論から出てきたキーフレーズやテーマをもとに、全体で深める２日目の議論につなげます。

2日目・・早朝のスタート、注目の復活選考は交流タイム、全体選考・討論へ！

復活選考 パネルの一斉展示によるポスターセッション

・テーブル選考で惜しくも選外となったものの中から、キラリと光る“いい川”“いい川づくり”新しい評価の視点をもつものをフォローアップする、それが復活選考の目的です。

【選考方法】
- ポスターセッション形式。全体選考、公開討論会のコーディネーター、コメンテーターによる投票（3 票程度／人・再投票の場合あり）

得票上位の**5件程度**が全体選考（二次選考）の対象に追加

全体選考・発表

- 全体選考の対象となる入選者（テーブル推薦 12 件＋復活選考？件）による発表。
- １日目同様、**各3分（発表のみ・質疑なし）**で行います。A テーブルから順番に推薦された団体、復活選考で選ばれた団体が続けて発表します。発表内容のポイントや表現の工夫で、さらなるアピールを！

全体選考（二次選考）

全体会場での選考会：テーブル推薦 12 件＋復活選考？件が対象

・コーディネーターの進行のもと、コメンテーターによる選考を行い、公開討論会への絞込みとともに“いい川”“いい川づくり”の評価の視点を明らかにしていきます。

【基本的な進め方】
- コメンテーターによる1回目の投票（適宜）
- 投票理由等の討論（適宜、発表者への質問等）
  ※キーワード等を記録、提示しながら進めます
- 会場からの応援、意見など
- まとめの討論

公開討論会への推薦**8件程度**を決定

- テーブル選考の**テーブルコーディネーター**は、**コーディネーター**の求めに応じ適宜コメントするなど、選考をフォローします。
- 応援意見は、自分の所属する団体以外のところとします。

公開討論会

全体会場での最終選考を兼ねた討論会：全体選考推薦 8 件程度が対象

・全体選考の結果、議論を受け、コーディネーターの進行のもと、コメンテーターにより、グランプリほか入賞の最終選考を通じた全体のまとめの討論を行ないます。

・本大会での発表や討論から見出された“いい川”“いい川づくり”の視点や課題などをふりかえり、会場全体で議論します。

【基本的な進め方】
- 発表はなし（壇上にパネルを展示）
- コーディネーター、コメンテーターによる総括討論
- 投票、会場からの意見等は適宜
- “いい川”のイメージやキーワードの整理
- 特別賞の選考

ワークショップ全体のまとめとしてグランプリ、特別賞等の決定

- **コーディネーター**は、適宜、コメンテーターらによる投票や会場からの意見等も聴取します。
- 応援意見は、自分の所属する団体以外のところとします。

表彰式・閉会式

・各賞を改めて発表、表彰（表彰状等の贈呈）し、ワークショップの成果を称えあいます。

＊以上は、各選考過程の基本的な進め方と全体的な流れ、選考員ほかの役割を示したものです。発表の内容や時間との関係で柔軟に対応し、対象件数、投票数、意見の聴取などは、各選考過程のコーディネーターや、選考員の裁量により適宜進行するものとします。

●選考の視点・評価のポイントについて

選考・評価の視点

- 川の「タカラモノ」に光を当て、「“いい川”“いい川づくり”とは何か」を探ります.
- 内容の長所を評価する加点方式とし、短所は減点の対象としません.
- 公開選考会は、以下の４つの選考の視点を参考に総合的に評価します.

  - **発想・着眼評価**：“いい川”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価
  - **関わり評価**　：地域住民と川との豊かで良好な関わり合いについての評価
  - **プロセス評価**　：“いい川”を育むための市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価
  - **計画・技術評価**：川らしさの保全や“いい川”回復のために工夫された計画手法や採用技術についての評価

評価のポイント（参考）

“いい川”“いい川づくり”の視点として、評価のポイントを下記のように示しました。これらは参考で、選考の過程で“いい川”“いい川づくり”の視点、評価のポイントを探ることが、このワークショップの目的です.

【“いい川”“いい川づくり”の評価のポイント】

- 川の状態（水質、水量、生態系の豊さ、ランドスケープ，魚が旨いなど）が優れており、将来にわたって保全したい川である.
- 住民に愛され、川づくりのモデルとしたい川である.
- 流域全体の健全度（森、農地、まち、海浜等と川のつながりが見える）が高い.
- 川の自然的、歴史的、文化的環境が保存され、継承されている.
- 活発な市民活動とその広がり（ネットワーク）があり、新しい川の文化を築く努力が行われている.
- 川と市民の関わりの独創性、将来性、楽しさなどがある.
- 川の個性を尊重し、整備の目標（いい川）が明確で、計画の基本的な考え方が優れており、整備（技術，工法）に、今後のいい川づくりのモデルとなる内容がある.
- 生物生態系保全、復元、親水や景観整備、治水、利水技術等で優れている.
- 計画、設計、施工、維持管理のプロセスにおける工夫がある.
- 行政の縦割りを越えた取り組み、住民参加、パートナーシップ、合意形成プロセス、市民の関心を高めるための努力などが優れている.
- 環境への負荷が低い、工事費や維持管理費が安い。
- ランドスケープ（川の周辺や流域全体）、まちづくりの視点がある.
- 整備の結果、住民に喜ばれた、住民の活動が生まれた、景観が向上した、生きものが増えた、水がきれいになった、水量が増えたなど、評価すべき点がある.

（森 清和さんによる）

【参考:いい川(河川力)といい川づくり(地域力)の評価のものさし】

《 いい川（河川力） 》

1	川の状況(水質・水量等)の維持・向上に努めている	（水質保全）
2	生き物の多様性が保たれている	（生物の多様性）
3	その川らしい姿の河川環境の整備・保全・再生がなされている	（技術体系）
4	地域の技術や材料や管理運営行事等が生かされ川と人と共に生きる状況づくりがある	（地域共生）
5	優しい人間的感情を引き出す空間の履歴がにじんでいる	（原風景）
6	本来の自然とともにさりげなく人の心を和ませる風景がある	（自然景観）
7	人と川と生き物の間にダイナミックなかかわりがある	（関係の多様性）
8	子どもが楽しく水遊びができる	（遊び環境）
9	おいしい水、うまい魚など川の恵みがある	（食文化）
10	セキュリティ(治水・安全)とアメニティ（環境・風景）が両立している	（総合性）
11	その他(	）

《 いい川づくり（地域力） 》

1	川の楽しさと怖さを次世代に体験的に伝える文化活動がある	（次世代継承）
2	記憶や思いを呼びさますソフトな活動をすすめている	（気づき・住民関心）
3	散歩や癒しなどくらしの中を流れる川として生かされている	（日常生活）
4	レクリエーションやイベント・表現の場として生かされている	（非日常的楽遊）
5	子ども・青少年たちの環境体験・学習の場として生かされている	（環境学習）
6	川・水に関する祭り的行事や信仰や民俗芸能等が生かされている	（文化環境）
7	住民が川普請や川づくり活動に参加している	（住民参加）
8	川の再生・育成に各主体(住民・行政・学校・NPO等)が情熱と行動をわかちあっている	（協働活動・パートナーシップ）
9	川をめぐる多様な主体間の社会的調整のしくみがある	（合意形成）
10	川づくりが流域連携,情報発信,地域防災,福祉,教育,地域経済ともつながっている	（地域づくり・まちづくり）
11	人々の川や水へのかかわりと表現を通して新たな文化を分かちあっている	（価値共有）
12	住民も行政も調査能力・計画能力・政策形成力を育んでいる	（市民社会河川学）
13	その他(	）

延藤 安弘「『川の日』ワークショップふりかえりアンケート中間報告」による

掲載：「川の日」ワークショップ第 10 回記念大会記録集，2008，「川の日」ワークショップ実行委員会

● 実行委員及びスタッフの主な役割について

テーブル選考（一次選考）

- **テーブルコーディネーター**　（各テーブル 1 名）
  - テーブル選考の進め方、発言のルール等の指示。各テーブルの参加者に対し、討論の記録、写真撮影等の承認。
  - 発表者と選考員の意見交換の調整。意見が分かれた場合の決定者。テーブル全体での議論において、公平な発言を促し、時間の管理を行う。
  - テーブル選考終了後の全体集会において、各テーブルの選考、議論の結果について報告（各3分，テーブルの選考員でも可）。
  - 2 日目の選考過程等でコーディネーターの求めに応じ適宜コメントする。

- **選考員**　（各テーブル 5～6 名）
  - 全体発表会での発表を受け、テーブル選考において、テーブルコーディネーターの進行のもと、質疑、討論により担当テーブルの選考を行う。各テーブルの発表から、それぞれの光るところを引き出し、あるいは互いに発見、深掘り、共有できるようなコメントで議論を盛り上げる。

- **記録員・選考補助（学生スタッフ他）**　（各テーブル 1～2 名）
  - 選考員と発表者の質疑応答、投票結果や討論の要旨、全体選考に推薦する団体の推薦理由の要旨等についてのメモづくり。
  - テーブルコーディネーターの補佐、パネルの移動等、主に発表者の補助。選考の後半は投票や集計等、選考に関わる進行補助
  - 質疑応答、討論時間の管理などのタイムキーパー。

復活選考・全体選考（二次選考）・公開討論会（最終選考）

※復活選考の投票は、全体選考と公開討論会のコーディネーター、コメンテーターが行います。

- **全体選考（二次選考）に関わる役割：コーディネーター**（1 名）／**コメンテーター**（5 名）
  - テーブル選考、復活選考で推薦された事例について、コメンテーターや会場からも意見を求め、さらに絞り込んだ事例を公開討論会による最終選考に推薦します。コメンテーターは、コーディネーターによる選考運営に従い、評価の視点やポイントなどのコメント、投票を行います。

- **公開討論会（最終選考）に関わる役割：コーディネーター**（1 名）/**コメンテーター**（5 名）
  - 全体選考（二次選考）から推薦された事例を対象とする最終選考とともに、ワークショップの総括的な公開討論を行います。コメンテーターはコーディネーターの求めに応じ、投票や評価等のコメントをします。選考、議論の進め方は、投票等も含めコーディネーターの裁量に任せます。

☆本大会は、実行委員、現地実行委員のほか、韓国からの参加者をサポートするスタッフを含め、学生や社会人などの多くのサポートスタッフのご協力を得て行います。

名札の色
（予定）

- 発表者：オレンジ
- 実行委員（選考員ほか）：青
- 全体選考、公開討論会のコーディネーター・コメンテーター：各キャラクター入り
- スタッフ及び学生スタッフ：黄色

● 各選考の選考委員紹介（投票札キャラクター） 敬称略

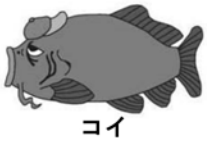
全体選考(二次選考) コーディネーター

- **高田 知紀**（たかだ ともき）　兵庫県立大学 自然・環境科学研究所/兵庫県立人と自然の博物館

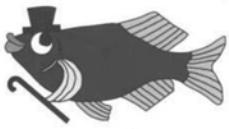
全体選考(二次選考) コメンテーター

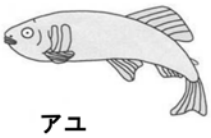
- **石川 妙子**（いしかわ たえこ）　仁淀川清流保全推進協議会
- **白川 直樹**（しらかわ なおき）　筑波大学
- **新玉 拓也**（しんぎょく たくや）　魚と子どものネットワーク
- **鶴田 舞**（つるた まい）　国立研究開発法人土木研究所 水環境研究グループ流域生態チーム
- **堂薗 俊多**（どうぞの しゅんた）　中央大学 研究開発機構


ウナギ


コイ


ヤゴ


メダカ


アユ

公開討論会(最終選考) コーディネーター

- **栗原 秀人**（くりはら ひでと）　下水道広報プラットフォーム

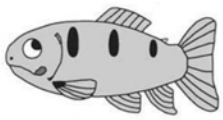
公開討論会(最終選考) コメンテーター

- **笹川 みちる**（ささがわ みちる）　NPO 法人雨水市民の会
- **瀧 健太郎**（たき けんたろう）　京都大学防災研究所 水資源環境研究センター
- **比嘉 基紀**（ひが もとき）　高知大学理工学部
- **百武 ひろ子**（ひゃくたけ ひろこ）　県立広島大学大学院
- **藤井 沙織**（ふじい さおり）　国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課


ホタル


ナマズ


タガメ


ヤマメ


オオサンショウウオ

実行委員長

- **宮口 侗廸**（みやぐち としみち）　早稲田大学 名誉教授

現地実行委員長

- **福永 秦久**（ふくなが やすひさ）　流域圏学会

【現地事務局スタッフ】
神田 修，羽方 優紀，中平 光高，中野 理子（公益財団法人 四万十川財団）
山﨑 翔人，山﨑 乃衣（高知県林業振興・環境部　自然共生課）

実行委員会 事務局長

- **山道 省三**（やまみち しょうぞう）　ＮＰＯ法人 全国水環境交流会

【事務局スタッフ】
犬山 清史，犬山 陽子，池谷 優子，上岡 眞帆，遠藤 郁代，堺 かなえ

以下の大学等の学生がサポートスタッフとして参加しています（順不同）
高知大学・愛媛大学・金沢大学・富山大学・筑波大学大学院・滋賀県立大学ほか

このほか多くの実行委員、ボランティアの方々に運営の協力を頂いています。

●第18回"いい川"・"いい川づくり"ワークショップin高知　全体発表会　各テーブル発表一覧

テーブルA

【記録】　（別会場：セミナールーム コミュバ）

発表	エントリー	ブロック	水辺の名称	所属	発表者	テーブル/復活	全体選考	表彰結果	役割分担	No.	氏名	地域	所属
A1	407	北陸・中部	白峰地域（しらみねちいき）	サテライトサークル しらみね大学村	辻　健太				テーブルコーディネーター		三ツ松由有子	北陸・中部	地域の未来・志援センター
A2	711	四国	土居川（どいがわ）	仁淀川の"緑と清流"を再生する会	園山　幹雄				選考員	1	伊藤　浩子	関東	全国川ごみネットワーク
A3	401	北陸・中部	鳥屋野潟（とやのがた）	開志専門職大学　　東城ゼミ	開志専門職大学東城ゼミ					2	近藤　朗	北陸・中部	愛知・川の会
A4	204	東北	貞山運河新堀（ていざんうんがしんぼり）	貞山運河倶楽部	上原　啓五					3	佐山　公一	関東	みずとみどり研究会
A5	404	北陸・中部	諏訪湖（すわこ）	信州こどもエコレンジャーMAGES with 岡谷市	芝田美智花					4	島村　雅英	関東	自然環境復元協会
A6	803	九州・沖縄	筑後川（ちくごがわ）	Good News	中島　重人					5	新川　達郎	東北	NPO法人水・環境ネット東北/同志社大学
A7	403	北陸・中部	天竜川（てんりゅうがわ）	特定非営利活動法人天竜川ゆめ会議	橋爪　和也					6	藤本　雄介	関係機関	国土交通本省 水管理・国土保全局　河川環境課

テーブルB

【記録】　（2階 小会議室A）　※小会議室A・B・Cは、2階大会議室（全体会場）を3分割で利用

発表	エントリー	ブロック	水辺の名称	所属	発表者	テーブル/復活	全体選考	表彰結果	役割分担	No.	氏名	地域	所属
B1	101	北海道	夕張川（ゆうばりがわ）	リバーネット21ながぬま	山本 隆幸				テーブルコーディネーター		坂本 貴啓	北陸・中部	金沢大学 人間社会研究域地域創造学系
B2	703	四国	仁淀川（によどがわ）	NPO法人仁淀川お宝探偵団	生野 宜宏				選考員	1	岩浅　将	関係機関	国土交通本省 水管理・国土保全局　河川環境課
B3	503	近畿	琵琶湖と流域（びわこりゅういき）　大戸川（だいとかわ）＆田んぼ	TANAKAMIこども環境クラブ	藤田 宗也					2	内田 尚宏	東北	一般社団法人 いわて流域ネットワーキング
B4	704	四国	仁井田川（にいだがわ）	坂山（さかやま）　陸（りく）						3	小林 一己	関東	黒目川に親しむ会
B5	601	中国	大野川（おおのがわ）	大野川いい川づくり	河太 勝子					4	崎山 正美	九州・沖縄	沖縄玉水ネットワーク
B6	302	関東	桂川（かつらがわ）	桂川・相模川流域協議会	日向 治子					5	谷田貝 泰子	東北	NPO法人水・環境ネット東北
B7	701	四国	吉野川下流域及び鮎喰川（よしのがわかりゅういきおよびあくいがわ）	特定非営利活動法人 川塾	豊米 晃代								

テーブルC

【記録】　（2階 小会議室B）

発表	エントリー	ブロック	水辺の名称	所属	発表者	ﾃｰﾌﾞﾙ/復活	全体選考	表彰結果
C1	709	四国	四万十川（しまんとがわ）	四万十川感謝祭実行委員会	山崎 準志			
C2	405	北陸・中部	天竜川（てんりゅうがわ）	長野建友会	矢澤 聖一			
C3	501	近畿	明石川（あかしがわ）	玉ーアクアリウム	神田 大和 柴垣 英明			
C4	402	北陸・中部	諏訪湖（すわこ）	下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会	垣内 祐樹			
C5	502	近畿	琵琶湖・宇治川（びわこ・うじがわ）	LOVED Anglers Project （釣り人による清掃活動）	津熊　操			
C6	712	四国	高知県・全国の鮎の育つ川（こうちけん・ぜんこく　あゆのそだつかわ）	高知県友釣連盟	川崎 智仁			
C7	504	近畿	芥川（あくたがわ）	芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク（愛称：芥川倶楽部）	久恒　将			

役割分担	No.	氏名	地域	所属
テーブルコーディネーター		松木 洋忠	九州・沖縄	松木技術士事務所
選考員	1	小山 隆春	東北	NPO法人北上川流域連携交流会
	2	塩崎 健太	四国	特定非営利活動法人 川塾
	3	菅谷 輝美	関東	新河岸川水系水環境連絡会
	4	宮藤 秀之	関係機関	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所
	5	米田 紗歩	北陸・中部	22世紀奈佐の浜プロジェクト、 魚と子どものネットワーク

テーブルD

【記録】　（2階 小会議室C）

発表	エントリー	ブロック	水辺の名称	所属	発表者	ﾃｰﾌﾞﾙ/復活	全体選考	表彰結果
D1	702	四国	鏡川（かがみがわ）	鏡川流域パートナーシップ 「マシジミクエスト」チーム	福井 美和			
D2	203	東北	広瀬川（ひろせがわ）	GARDEN of RIVER,　SENDAI　project	宮崎 典子			
D3	304	関東	黒目川（くろめがわ）	第31回黒目川川まつり実行委員会	野口 龍太			
D4	408	北陸・中部	矢作川流域（やはぎがわりゅういき）	農村舞台寶榮座協議会（ほうえいざ）	大嶋 謙介			
D5	705	四国	四万十川（しまんとがわ）	シマントモリモリ団	宮崎 聖			
D6	804	九州・沖縄	シーローガー	沖縄玉水ネットワーク	島袋美由紀			
D7	409	北陸・中部	鳥屋野潟（とやのがた）	特定非営利活動法人新潟水辺の会	長谷川 隆			

役割分担	No.	氏名	地域	所属
テーブルコーディネーター		山田 千尋	近畿	野洲市都市建設部
選考員	1	小林 明仁	関東	よこはまかわを考える会
	2	佐藤 年緒	関東	環境・科学ジャーナリスト
	3	竹原 和夫	中国	旭川流域ネットワーク
	4	松本 遥紀	北陸・中部	魚と子どものネットワーク（かわまち担当）
	5	三井 元子	関東	NPO法人あらかわ学会・NPO法人エコロジー夢企画

テーブルE

【記録】　（1階 会議室2）

発表	エントリー	ブロック	水辺の名称	所属	発表者	テーブル/復活	全体選考	表彰結果
E1	801	九州・沖縄	有明海（ありあけかい）	水の会	山口 徳雄			
E2	102	北海道	ヌップク川	十勝川中流部市民協働会議	黒井 孝明			
E3	303	関東	落合川・黒目川上流（おちあいがわ・くろめがわじょうりゅう）	特定非営利活動法人パートナーシップオフィス（東久留米・水環境マップ2.0制作ワーキンググループ）	金子 博			
E4	707	四国	江ノ口川（えのくちがわ）	高知大学 野生生物研究会	阿部 恵太			
E5	202	東北	広瀬川（ひろせがわ）	カワラボ（NPO法人水・環境ネット東北等との連合団体）	棟方 有宗			
E6	301	関東	小山川・元小山川（こやまがわ　もとこやまがわ）	早稲田大学本庄高等学院 河川研究班	飯島 拓翔			
E7	406	北陸・中部	乙川（おとがわ）	松野 允時（まつの さねとき）				

役割分担	No.	氏名	地域	所属
テーブルコーディネーター		清水 雅子	近畿	愛知・川の会
選考員	1	大下 宗亮	関東	高知県環境カウンセラー協会
	2	寺村 淳	関東	大正大学 情報科学部
	3	福永 和久	中国	鹿児島県土木部 河川課
	4	山村美保里	北陸・中部	愛国学園短期大学
	5	山本 耕平	関東	NPO法人雨水市民の会

テーブルF

【記録】　（1階 会議室1）

発表	エントリー	ブロック	水辺の名称	所属	発表者	テーブル/復活	全体選考	表彰結果
F1	710	四国	物部川（ものべがわ）	物部川清流保全推進協議会（高知県林業振興・環境部　自然共生課）	山﨑 翔人			
F2	802	九州・沖縄	甲突川（こうつきがわ）	鹿児島県土木部河川課	竹山 浩平			
F3	505	近畿	浦川（うらかわ）	神戸市建設局 森林・防災部河川課	梶谷 友美			
F4	205	東北	相馬川（そうまがわ）	青森県 県土整備部 河川砂防課	小林 弘汰			
F5	708	四国	北川川（きたがわがわ）	よみがえれ四万十源流の会	豊田 庄二			
F6	201	東北	広瀬川　愛宕堰（ひろせがわ　あたごせき）	宮城教育大学・生物学教室	西 美紗緒			
F7	706	四国	四万十川（しまんとがわ）	金谷 光人（かなたに みつひと）				

役割分担	No.	氏名	地域	所属
テーブルコーディネーター		宮本 善和	中国	鳥取大学工学部 社会システム土木系学科
選考員	1	今城 雅之	四国	高知大学　農林海洋科学部 海洋資源科学科
	2	上田 豪	近畿	ねや川水辺クラブ
	3	宗 琢万	関係機関	公益財団法人 リバーフロント研究所
	4	田中 泰子	四国	一般社団法人　神山つなぐ公社
	5	西山 穏	四国	株式会社 ナツルナヘルランドシャフト
	6	福澤 浩	北陸・中部	NPO法人天竜川ゆめ会議

「川の日」記念事業

第 18 回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップ in 高知

～ 川ガキたちの国 土佐で考える 川と人のつながり・人と人のつながり～

○主　催：いい川・いい川づくり実行委員会

実行委員長 宮口 侗廸　　現地実行委員長 福永 秦久

○後　援：国土交通省、高知県、四万十川総合保全機構、公益財団法人 四万十川財団

第 18 回いい川・いい川づくりワークショップ in 高知　実行委員会・現地実行委員会

＊2026.10 現在、実行委員承諾者（敬称略・順不同,84 名）

北海道	栗原　秀人	松井　正澄	宮口　侗廸	**四国**	山口　徳雄
菊池　静香	小林　明仁	三井　元子	森　誠一	西山　穏	**関係機関**
東北	小林　一己	山道　省三	米田　紗歩	大下　宗亮	岩下　友也
内田　尚宏	小堀　洋美	山村　美保里	**近畿**	石川　妙子	藤本　雄介
小山　隆春	笹川　みちる	山本　耕平	岩崎　哲也	山﨑　翔人	鶴田　舞
金子　博	佐藤　年緒	**北陸・中部**	上田　豪	塩崎　健太	内藤　正彦
新川　達郎	佐山　公一	近藤　朗	北井　香	田中　泰子	宗　琢万
谷田貝　泰子	島村　雅英	相楽　治	宇野　宏司	比嘉　基紀	中村　圭吾
関東	白川　直樹	坂本　貴啓	高田　知紀	今城　雅之	藤井　沙織
池内　幸司	白瀧　敏弘	清水　雅子	瀧　健太郎	福永　秦久	福永　和久
礒　ちず子	菅谷　輝美	新玉　拓也	福廣　勝介	神田　修	花房　昌哉
伊藤　浩子	竹内　えり子	長谷川　隆	山田　千尋	**九州**	岩浅　将
犬山　清史	寺村　淳	名畑　恵	**中国**	上野　敏孝	宮藤　秀之
伊納　浩	堂薗　俊多	福澤　浩	竹原　和夫	岡　裕二	
大平　一典	堂本　泰章	松本 遥紀	百武　ひろ子	崎山　正美	
金澤　光	前川　智美	三ツ松由有子	宮本　善和	松木　洋忠	

「第 18 回“いい川”・“いい川づくり”ワークショップ in 高知」は、
公益財団法人 河川財団の河川基金の助成を受けています.

「川の日」ワークショップとして 1998 年に始まった「“いい川”・“いい川づくり”ワークショップ」は、「川の日」記念行事として「川の日」実行委員会が共催しています.　https://www.japanriver.or.jp/kawanohi/

いい川・いい川づくり実行委員会　事務局

〒150-0001　東京都渋谷区神宮前 1-20-14-301　NPO 法人全国水環境交流会

TEL：03-3408-2466　FAX：03-5772-1608　E-mail：kawanohi-2006@mizukan.or.jp

URL：http://mizukan.or.jp/kawanohi

表紙イラスト：延藤 安弘

